

●●●●●●「S-KYT研修(3時間コース)を実施して」●●●●●●

福島市消防本部 消防総務課
主査 佐藤 大資

1 はじめに

福島市は、福島県の県北地方に位置し、人口約29万人の県庁所在地です。

福島市は、四季折々の自然があふれる土地であり、吾妻山をはじめ、市内西方の高湯温泉と土湯温泉を結ぶ磐梯吾妻スカイラインは「日本の道100選」にも選ばれています。

また、盆地特有の気候を生かして初夏のサクランボ、真夏のモモ、秋のナシやブドウ、そして初冬のリンゴなど四季折々の果物が生産され、果物の種類、甘み、酸味等のバランスが良く、どの果物もおいしいところから「くだもの王国」「くだもの里」と呼ばれ、東北有数の果物産地として有名であります。

また、近年では福島市南東部に位置する「花見山」が有名であり、日本を代表する写真家、故・秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と毎年訪れていた場所で、梅・ハナモモ・数種類の桜・レンギョウなどの花々が一斉に咲き競う場として名をはせています。また、ライブカメラにより1年を通して花見山の様子を楽しむことができます。

本市消防団は、1消防団9方面隊、43個分団で構成され、2,535人(平成26年4月1日現在)の

団員が各地域の防火防災に全力を尽くし、昼夜を問わず安心して安全な街づくりに貢献しております。

2 S-KYT研修開催の経緯

本市消防団は、今回の研修が初めてのS-KYT研修会であり、各種研修(新入団員研修、機関員研修、交通部員研修)を市独自の研修等で実施してきた経緯があります。

しかし、3年前の東日本大震災を契機に多種多様化する災害に潜む危険をいち早く察知する感性、そして現場活動における適切な対応能力の向上が団員の安全管理と公務災害の防止に役立つとの考えにより、常備消防や一般企業でも取り入れている危険予知訓練を消防基金御協力のもと、実施する運びとなりました。

3 研修の様子

平成25年12月8日(日)福島市保健福祉センター大会議室を会場とし、午前11時よりS-KYT研修(3時間コース)を開催しました。

当日は団員54名が研修に参加し、鈴木範男氏、宇都宮良幸氏、森方功氏の3名の指導員からDVDを用いた講義を始め、指差し呼称、唱和、タッ



チ & コール、健康問いかけKYと午前中の講義を終了し、午後からは危険要因の捉え方と表現、そしてS-KYT4ラウンド法などの講義を行っていただきました。

勤務先などで危険予知訓練を実施している、または、以前に行った事がある団員のかたも講義に参加していましたが、勤務先で実施しているものとは違い、新たな気持ちで、団員の皆さんも参加されていました。

グループ構成は他分団との交流も考え構成しましたが、団員の皆さんはすぐに交流を深め、活発な意見を各グループとも交わしていました。

指差し呼称の重要性を団員の皆さんは、しっかりと理解し、大きな声で訓練に参加しており、「今回、初めての研修であったが、次回もぜひ開催して欲しい」、「もっと詳しく、内容を理解したい」、「分団に持ち帰り、各団員に伝えたい」等の声を頂き、たいへん有意義な研修であったと事務局も感じております。



4 今後について

今回の研修後、事務局では受講者の皆さんからのアンケートや研修会場で頂いた意見を基に、来年度もぜひ実施していこうという話にまとまりました。

平成26年度の消防団年間行事計画の中にも、既に盛り込まれています。

今回は初めての研修受講ということで3時間コースの受講でしたが、今後は、4時間コースも計画し2回、3回と回数を重ね、より多くの団員が危険予知に関する知識を習得し、現場活動における安全管理の徹底、そして何より公務災害をゼロにするためにも市消防団一丸となって、より良い活動環境を作れるよう進めていきたいと思えます。

今回の研修開催にあたり、御協力をいただきました各指導員のかたがた、消防基金担当のかたがたにあらためて御礼を申し上げます。

